

三歳児

入園当初の一週間



村井トミ

昨年三歳児を受けもってから、もう一年が過ぎた。はじめはトヨコのようにヨタヨタとした感じのあの子どもたちが、最近ではすっかり幼稚園を我が天下として活躍している。ここに一週間の記録をのせるに当たって日記をくってみると、当時のさまざまのことが、ひとつひとつ昨日のようによみがえって、しばらく楽しい追憶の世界にひたらせてくれた。楽しかったことも、かわいらしかったこと、困ったこと、手こずらされたことも、みんな今ではほほえましく懐かしい気持ちでいっぱいである。

一年の中のどの一週間をえらぼうかと思ったが、三歳児なので

入園当初の一週間の記録をのせることにする。

入園当初の一週間は子どももよそゆきのところがあるとみえ、あまり困ったこともなく過ぎる。むしろ二週目の終り頃から三週目にかけて、いろいろの問題が起こってくることが多い。この年の日記にしても類にたがわずであった。

昭和四十二年 四月八日(土) 入園式

九時前頃から母親につれられて、かわいい顔が見えだした。今日は親がいっしょについているのであまり心配はなさそうである。三月に保護者と担任との会を開いているので、お母さんたち自身が、どこか安定した気持で子どもたちを連れてくるのかもしれないし、こちらも初対面でないことが気持にゆとりをもたせてくれる。

但し子どもたちとは、はじめてのお見合である。三歳児の先生にふさわしく、にこにこ優しく、やわらかい雰囲気でも子どもたちを受けとめることにとめる。先ず子どもたちにとって大好きな先生とならねばならない。遊具もとりつき易いように、心してあちらこちらに散らしておく。事前に家庭調査書をよく見てお

き、その子どもの性格や特徴を知っておくのが、役に立つこともある。親を離れないのはK子とLの二人。K子は母がちよつとも離れると泣く。

●自分の持物の置場所を覚える

字はよめないと思うので靴箱などあちらこちらの置場に、ひとりひとりにチューリップや兎、自動車など小さいかわいいマークを考えてはっておいたので、思ったより簡単に覚えたようだ。M子など、靴箱も帽子かけ、手ぬぐいかけも、お弁当棚も……どこにも自分のマークのかわいい赤いリングがはってあるのを知って、かわいい顔を更になっこりさせたのも印象的であった。

●入園式

ゆうぎ室に入る。子どもたちは親から離れて前列の椅子に腰かける。K子だけ後の保護者席で母にしっかりとくっついていて。Lはよく離れたものだと感心したが下を向いたきりで全く顔をあげない。よくも長く続くものである。Lは私の手をしっかりと握ったきり一時もはなしてくれない。ひとりひとり名前を呼ばれて返事をしたり、手をあげたり、しらん顔をしたり、いろいろである。園長先生のお話も短くて、子どもにとってはありがたい。つづいて人形劇の動物たちが順々に舞台上に登場して子どもたち一言ずつ挨拶をする。兎は耳をふりふり、狸は大きなお腹をたたき、豚は大きい鼻をブーブー鳴らし、狼はノソノソ。さっきまで

下を向いたきりのLの顔が次第に上がってきて遂に普通の状態になった。ほっとする。次に五歳児が歌をうたってくれる。みんなの知っているチューリップや靴が鳴るである。これで式は終わった、紅白のおまんじゅうをもらい、うれしそうだ。

●入園写真をとる

庭の桜の木をバックにして親子そろって写真を撮る。写真がすんだので部屋にひきあげると一人たりない。今いたはずなのに必死に探してみると、いつのまにか次の四歳児の仲間になって、すましてもう一度写真を撮ろうとしているKであった。思わず笑ってしまったが前の一瞬はひやりとした。

この第一日目の子どもたちの印象を一言ずつ記録したのを、一年たった今頃よんでみるとおもしろい。二、三あげてみよう。

I よくしゃべり、調子にのりそう。

T 力づよくわんぱくらしい。ちよつと押してもまわりの者がころぶ。

M子 日本人形のように。おとなしく落ちついている。

L おむつがとれたばかりの感じ。先生独占型。

Y子 一人前にどんどんあそべそう。その反面甘ちゃん。

H子 ハイと返事がとてもよい。きちんとしておとなしそう。

(ネコかぶっていたらしい)



「おいしそうなごちそうね」とお客さまになる。ぞろぞろとお客さまがふえる

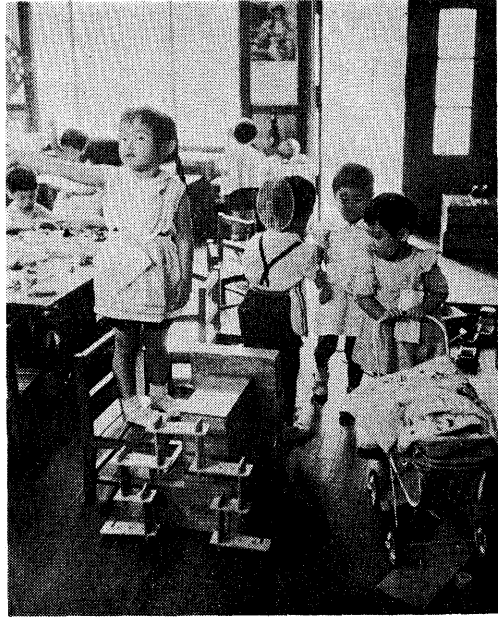
四月十日（月）雨

◎付添いをはなれてたのしくあそぶ

今日よりいよいよ付添いをはなれるので大変だと覚悟している。入園前の会で、付添いを一刻も早く離れることが子どものために幸であることをよく話しておいたので、思ったより渡し方、受け取り方がスムーズにいった。トラックや豆自動車、汽車、人形、ままごと、積木などよろこびそうなところへ誘う。汽車にしても、きちんと箱に入れておくより、二つ三つ連ねておくとか、つみ木もいくつかつみかけてまわりにこぼしておく方が、子どもたちにとっては、はやり易いようだ。問題はK子とLだが、二人ともはじめは母も部屋に入り親子いっしょに遊び、いつの間にか自然に戸の外へ、廊下へ、玄関へと姿をくらましてくれたので、どちらも泣かずにすんだ。こんなにもこちらの話を守ってくれた二人の親に感謝したい気持だった。

雨のために室内だけであそんだことが、かえって全体のまとまりがあつてよかつたかもしれない。でも一刻でもつまらない時間がないように、こちらも気をくばって絶えず言葉をかけた。仲間がさそったり、なかなか忙しい。ままごとでは御馳走づくり、アイロンかけ、うば車を押したり、傘をさして歩いたり……、動物を汽車にのせて引っぱったり、トラックに荷物をつんだりおろしたり、長いブロックをつなげて自動車にガソリンを入れ

うば車で赤ちゃんのお守り、左はおまわりさん



たり、組木を組んだり、指人形をはめて先生と話をしたり、一〇時三〇分までの第一日を無事終了した。みんな満足げだったのでうれしかった。帰りは長く一列にらんで、汽車になって玄関まで行き、一人ずつ親に渡すのだが、今日などは上手にならべる。Iが手足をバタバタさせて奇声を発し、一時はみなも真似をしたが、すぐにおさまった。

この日の記録の最後に次のようなことが書いてあった。

とにかく親をはなれて泣かずにあそぶ。

・おもちゃのかたづけなどよく手伝ってくれる。

・手を洗っても水をはね返さない。

・列をつくっても、とび出したり、追いかけてつかまえたりしないですむ。

三年前のこの頃を思うと、現代なのか？とおどろく。(後日、けっこう水いたずらも始めたが…)

四月十一日(火)

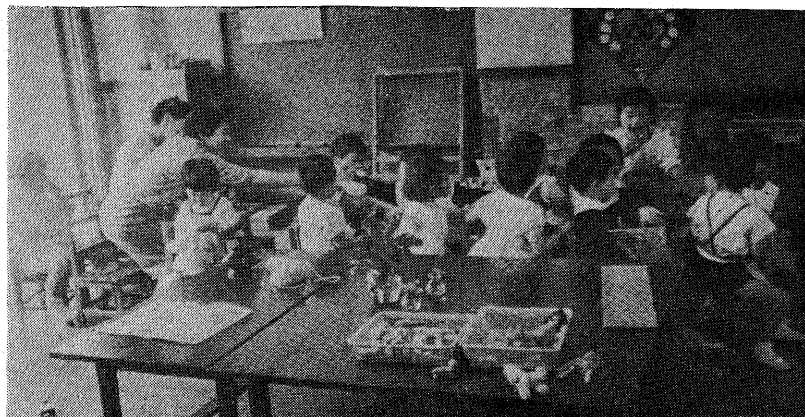
◎室内のおもちゃでたのしくあそぶ

LとK子が朝ちょっとだけ母にいてもらったがあとは無事である。昨日のあそびをよろこんでいる。女の子は断然ままごことが中心である。男の子はブロックや汽車のようなものが多い。どうやら幼稚園も好きになれそうだし、先生も好きになってもええそうだ。K子もなれにくく、無口だが、あそびに入ってしまえば懸命に洋服のきせ替えなどしている。I、Kの二人はウルトラマンになって室内を走りまわる。SはLといっしょに小さい積木をつんでは地震だとかわすのがおもしろいらしいが、ちょっと気をゆるすとシーンとする。そして案外重い体で先生の膝にのったり、よりかかったりして甘える気分十分である。

◎紙芝居をみる(蛙のブカブカ靴)

赤いかわいい長靴をそまつにしておいたので蛙にはかれて困っ

汽車にのってお出かけ——
先生を中心にあそびが発展する



たという筋。先生の前に椅子を半円形にならべてよろこんで見ると話は途中で、それから？それから？と伴奏を入れるので友だちにうるさがる。

●歌をうたう

「靴が鳴る」を手を叩きながらうたう。Lひとり手を出さなかったが誘導の甲斐あって途中からやり出した。H子は急に一人立ち上がった、「私、うたいます」といって大きい声ではっきりうたっ

たのには、こちらの方が驚かされた。

●五歳児より首かぎりをいただく

小さい先輩に一人ずつ首に花の首かぎりをかけてもらう。うれしそうだ。

四月十二日（水）

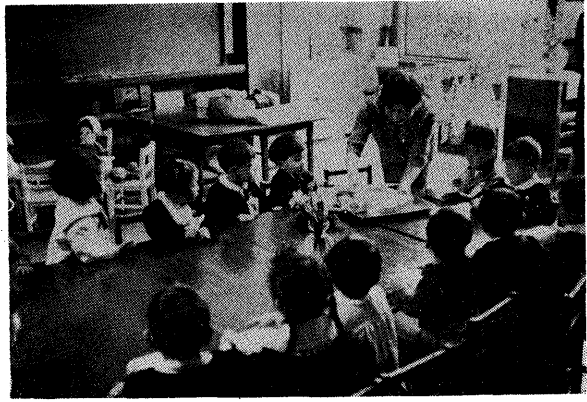
毎日うすら寒い日がつづく。戸外に出られないのが、今のところかえってまとまってよいかもしれない。K子、Lも一日毎に付添いをはなれ易くなってきた。

●いろいろのおもちゃであそぶ

昨日のあそびをまたのしむという感じ。Lのおもちゃの種類もふえてきた。M子はマジックをひとりでもち出して黒板に書いてしまう。紙にかかせようとしてもなかなかきかない。意志が強く、やろうとしたことは、とにかくやるつもりらしい。きれいな色チョークに切りかえたら、みんな黒板にチョークで書き出した。これに続いてクレヨンで紙に絵をかきはじめる。七割位が描画に近い。また、縄とびを何本もならべてとぶのも今日大はやりであった。

●おやつをいただく

やはり子どもだなどおかしくなる位、ちょっとしたおやつはうれしらしい。おやつで釣るつもりではないが、つい二、三日前



「さあ、おやつですよ」こういう時はお行儀がいいこと

までは家庭でして
いたと思う。たま
にはあげたくもな
る。手をよく洗わ
せたが、今のところ
は水をはね返さ
ずに三つの水道の
前に上手にならん
で洗う。

四月十三日(木)

一日毎になれて
きてよくあそんで
くれる。入園当初

にみられる大泣きの光景は全くない。だからいかによりのしく
あそばせ幼稚園を完全に自分のものにさせるかに苦心をするわけ
である。そろそろ庭に出してあそばせたいが天気が悪くて今日も
駄目である。

●人形劇をみる

今日は保育科の学生の実習日なので、人形劇をしてもらう。筋
のまとまった物語でなく、子どもたち自身の生活にあるものから

題材を拾ってもらう。動物たちが汽車になって連なったり、歌を
うたったり、かくれんぼをしたり……大よろこびである。舞台も
部屋においてある子ども用のでもしてもらう。その方が、明日から
のあそびのきっかけにもなるかもしれない。夢中になってみてい
るが、時々舞台をのぞいて奇声をあげるのはTとKの二人。注意
すると「Tちゃん、もうしないよ」といってまたすぐにする。

四月十四日(金)

今日は男女にかかわらず部屋の隅から大きい積木をせっせと運
んでくる。運んできては、やたらとつむ。とうとう全部運んでし
まった。何だか偉大なことをしたように、みんな眼を輝かせて頬
も紅潮している。自然に笑いがこみあげてきた。三歳の今頃は、
このようにただ運ぶだけでもおもしろいのかと今更ながら思っ
た。運んだ積木を少し整理してトラックや自動車を入れたり出し
たりしてあげるとよろこび、そのあとあそびが続いていった。

●戸外にはじめて出る

今日もあまりよい天気といえないが、もう一週間にもなるので
庭に出す。ブランコ、すべり台、白い自動車などうれしくて、う
れしくてたまらない。すべり台もいつまでもあきずにすべってい
る。無口なK子がブランコをしっかりとこいでいる。と同時に一
たん、しゃべり出すときりがない位、次々に話をしてくれるのに



なれにくい子どもも、さそってお庭へ……

恐れ入ってしまった。と同時に、ああよかったとほっとした。Lは戸外だと尚更先生にしっかりとくっついて相変らずにこにことしている。Lは誘っても戸外に出ず、一人になっても部屋の中であそぶ。室内の方が安定感があるらしい。時々、のぞきに行つてあ

げること満足しているらしい。

◎歌をうたったり、蝶々やチューリップになってあそぶ

帰りの前の寸暇を、「靴が鳴る」「チューリップ」などの歌をうたう。半分以上が自分から希望してうたう。蝶々になってその辺をとんだり、花になって咲いたり、ゆうぎともあそびともつかないようなことをピアノを弾いてすると、一人のこらず参加するので驚いた。(後日、親からの話の中で、これがとてもたのしくてたまらないらしいことがわかり、こちらもうれしくなった)

◎五歳児より手かごをいただく

先日の首かざりにつづいて、今日は手かごをお土産にいただく。新しい五歳児が一生懸命つくった製作品を二まわりも小さい三歳児に渡している風景は何ともかわいらしく、ほのぼのとしたものがある。大切に手にさげて帰る。

入園式以来、一週間が無事にすんだ。そろそろ疲れが出てきて、きげんが悪くなるのではないかと思っていたが、案外元気でいてくれる。次第に保育時間も長くなるし、春の身体検査もあるし、疲れも出てくるし、これからの方がいろいろと苦心のいることだろうと思われる。しかし十人、十色の子どもたちがいろいろの経過をたどって成長していく姿を毎年見ていると、これでこそ教師の生き甲斐もあるのだ、これでいいのだと思わずにはいられない。